

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第17号）について（送付）
八代地域で3月25日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、指導の参考にして下さい。

記

発蛾最盛日は4月9日と予測される（平年より8日早い）。
越冬世代（幼虫+蛹）の発生量は平年並だが、密度の高いほ場もある。

1 調査結果の概要

- (1) 3月25日現在、越冬世代の蛹化率は同時期の平年より高く、越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年（4月17日）に比べ8日早い4月9日と予測された（表1）。
- (2) 幼虫及び蛹の密度は4.0頭/10㎡（平年3.4頭/10㎡）と平年並であったが、密度の高いほ場もあった（表2、図1）。

2 防除対策

- (1) 「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生密度を抑えるため、4月に第1世代幼虫の防除を徹底する。
- (2) 防除適期は粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤は発蛾最盛日7日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2～3回の防除を行う。
- (3) 発蛾最盛日が平年より早くなる予想であるため、防除のタイミングを逃さないように準備する（表1）。
- (4) 予測される発蛾最盛日はほ場によるばらつきがあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況にも注意して防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報（積算温度による発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、病虫害防除所のホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto>）に随時掲載します。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	調査日	蛹化率 (%)	発蛾最盛日予測 (実測日)
本年	3月25日	44.7	4月9日
前年	3月26日	45.9	4月11日 (4月9日)
平年	3月26日	24.9	4月17日 (4月15日)

注) 蛹化率：調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

予測式：過去10年間の「調査日の蛹化率」と「調査日から発蛾最盛日までの日数」との関係から求めた予測式

$$= \text{調査日の蛹化率}(\%) \times (-0.230425818) + 25.6422114 + \text{調査日} - 31 \text{日}$$

実測日：予察灯（八代市）で4月に誘殺のピークが見られた日

表2 イグサシンムシガ越冬調査結果

(調査年月日：令和2年3月25日)

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m ² (幼虫+蛹)	茎数/株
1	氷川町 (旧竜北町)	野津	100	3	1	1	2	5.6	86.0
2		鹿野	100	3	0	0	0	0.0	88.8
3		鹿島	100	2	1	0	1	2.8	113.2
4		網道	100	7	2	1	3	8.4	93.4
5	八代市	野崎	100	2	2	0	2	5.6	39.0
6		鏡村	100	0	0	0	0	0.0	87.6
7		北新地	100	10	2	2	4	11.2	76.8
8		中島	100	6	1	2	3	8.4	66.0
9		太牟田	100	7	2	0	2	5.6	81.2
10		吉王丸	100	2	0	0	0	0.0	60.6
11		両出	100	0	0	0	0	0.0	73.8
12		古閑出	100	0	0	0	0	0.0	86.4
13		松高	100	0	0	0	0	0.0	55.8
15		三江湖	100	0	0	0	0	0.0	73.8
16		日奈久	100	2	2	0	2	5.6	76.0
17		平和	100	2	2	2	4	11.2	48.8
計			1,600	46	15	8	23	4.0	75.5

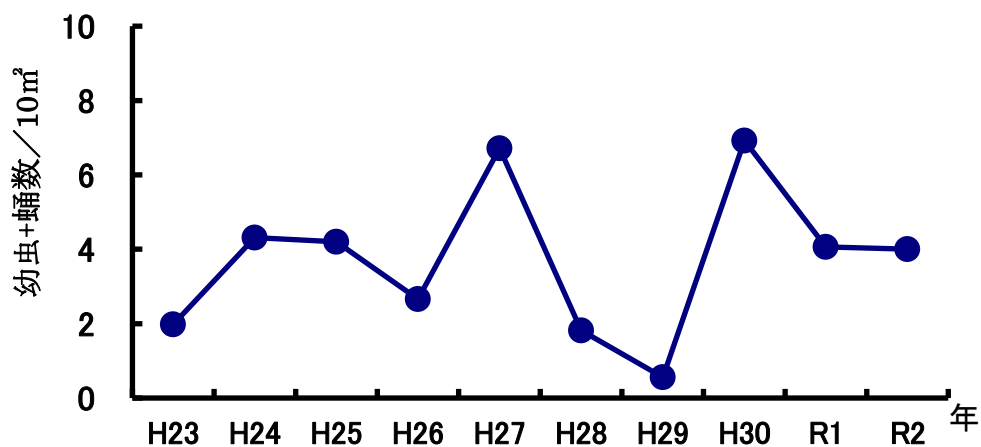


図1 イグサシンムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移（八代地域）

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所
(生産環境研究所)
担当：作本
TEL:096-248-6490